

令和8年第2回 清瀬市まちづくり委員会議事要旨

【開催日時】

日時：令和8年5月26日（火）午後6時～

場所：清瀬市役所4階 研修室

【出席委員】

大室委員長、野村副委員長、荒井委員、片桐委員、北原委員、小林（陽）委員、
小山委員、酒井委員、重富委員、清水委員、城山委員、杉山委員、高草委員、谷口委員、
津村委員、徳井委員、中村委員

事務局：地域振興部長、市民協働課長、協働係長、協働係主任

【配布資料】

令和8年度第2回 清瀬市まちづくり委員会次第

令和8年度第1回 清瀬市まちづくり委員会議事要旨

グループ分け希望・意向調査票の記入について

令和8年・9年度清瀬市まちづくり委員会委員名簿（修正版）

【議事】

1 開会 大室委員長

【委員長】3名の委員が本日欠席という連絡をいただいている。

副委員長から、ゴールの共有ということで報告会についてプレゼンをさせていただきます。それを踏まえ各委員のから応募理由やご自身のPRしていただきます。

そのうえで、班分けをさせていただき議論をしていただきたい。

本日は、仮の議題を用意しているので議論をお願いいたします。

2 事務局より

（1）配布資料の確認

【事務局】5月26日時点の委員名簿です。お取り扱いにはご注意ください。

グループ分け希望・意向調査票の記入については

（2）令和8年第1回議事要旨の確認

【委員】前回議論になったが、まちづくり委員会のきまりの中で、全員一致っていうのは無理だと思う。多数決をしているということに対して、おそらくそれがよろしくないという意見だったと思います。多数決で単純に決めるのではなくて、全員が納得するまで議論を尽くすということが結論だったと考える。安易に多数決はせず、納得するまで議論を尽くすという方向で文言を変えていただきたい。

【事務局】議事録の方を修正いたします。

（3）新規市民提案 →0

【事務局】more!KIYOSEに「まちづくり委員会」の記事を掲載予定。

委員会の様子を写真撮らせていただきたい。

3 報告会のイメージについて

【副委員長】まちづくり委員会の役割と具体的に何を進めていくのか。

最初は、まちづくり委員会が進めるべき三つのこと。

まちづくり委員会は、「多くの市民の皆さんに、まちづくりや市政をより身近に感じてもらうことを目的とし、市民からのまちづくりの提案や、条例の適切な運用について審議する。」というのが、我々の役割になっている。皆さんご存知だとは思いますが今一度、確認してほしい。

具体的に、1つ目は市民からの提案をうけ、実現可能な状態に議論し市長提言という形に持っていく。2つ目は40の附属機関がまちづくり基本条例に則った運用がされているか運用状況調査の報告書を作成するこの2つが成果物となる。2月の報告会では、これらの成果物をもって報告会を行う。条例審査では、各附属機関の委員は公募により選出することが基本となっているが、専門的な内容のため公募になじまないという回答が結構ある。ここについては、今後も追求していくアクションを昨年はとっている。2月の報告会は市役所で開催しており、運用状況調査報告や市民提案が市長提言となるまでの過程をプレゼンし質疑応答の流れとなった。

【委員】グループワークの非効率性とかゴールビジョンの共有不足としてまとめているが、まちづくり委員の経験をしているので大体わかるが、新しいメンバーには、もう少し直に、伝えるべきではないかと思う。

【副委員長】ご質問ありがとうございます。グループワークについては毎回結構な時間を割き議論を重ねたが、「あの話はどうなったんだ」という取りこぼしが大分多かったような印象がある。また、各グループによってカラーがあったと思うが、成果物に向かって誰か1人が話しをしてしまったり、報告会を迎えてもなかなか成果物につながらないなど。こういったところは解決していきたい。

また、ゴールビジョンの共有不足というのは、実際にまちづくり委員会が何を進めていくかということがあまりわかってらっしゃらない方がいた。市民の声をどう形にして市長に届けるかというのが一つあるのと、もう一つは、まちづくり基本条例の運用状況がどうなっているかということを監査役みたいな役割を担っていることを事前にお伝えしておいた方がいいと考え共有した。20人で一つのことを議論するには、人数が多すぎると議論が活性化せず収束できなかったという現象が見られた。

4 各委員のPR

【副委員長】班分けをするにあたり、希望する班や自分ができることなどPRいただきたい。

→出席委員希望する班や自己PRを行った。

5 各班分けについて

【委員長】市民提案を浸透させていく方法について、班になって討議し報告してもらうことをしていきたい。

【1班】報告会を市役所でやらず駅前で開催し様々な年齢層の人に参加してもらう。SNSを活用しセールスをうまく活動に活かしていく。

【2班】名刺を作るということについては、状況にもよるが無しという結論に至った。理由としては名刺を渡すことが目的になる点が懸念される。広報活動の一環

として、名刺を渡すのではなく、まちづくり委員として自分の名前が入った名刺を渡す。名刺を渡すこと自体が目的になるのであれば、それは広報活動ではないのではないかという意見が出た。

まちづくり委員としてどういうことをしていくとか、どういう広報をしていくかを伝えることが重要という結論に至った。

【3班】清瀬市の情報を何から収集するのか。ということから考えた。

年齢層によって違うと思うが、若い人だったら市報よりも、ホームページやSNS、そういったところから見られるので、当然、年齢がもう少し上の方は、紙ベースのもので見るのではないか。となると、両方を使った周知が、望ましいと考えています。提案チラシもキャッチコピーみたいなものを、やった方がいいのではないか。川柳やポスターで募集するのも良いと考える。どちらかというと周知不足というよりは市民が、市民提案という言葉自体にハードルを感じているのではないかという話が出た。提出する書面を見ても、かなり個人情報を書く。もしかしたらこんなことを書いたらクレームって思われるとか、何か大きな責任を負わされてしまうのではないか。と思って手が止まってしまう方もいるのかと思う。そこで、意見を提出するというよりも、日常、何か気づいたことや困ってることなどのニュアンスで提案を促した方がいいのかということです。ただそれをどうやって伝えるかということですから、現在、それほど予算がないということで、現状のチラシは、そのまま使うとして、名刺は今紙ベースでお渡しするという文化があまりなく馴染みがない方々も多くなっている中で、スマホのQRで、私たちの名刺的なものを見せる。まちづくり委員会から市民まつりやイベントに出向き、「気軽に答えていただけませんか。」といった軽い感じで市民の方から意見を聴くことや、後でQRから答えていただく方法もあるのではないかという意見が出た。加えて提案がどういう形になって反映されてるのかということも伝える必要がある。それが報告会につながっていくという話で、まとまった。

【4班】5つ具体的な意見がでました。

1つ目は、従来通りの掲示をする。

2つ目は配布。配布の具体的な案としては、市民まつりや農業まつり。常設的には、直売所に設置するなど積極的に声かけるという形の配布。

配布の方が、積極的になる。市民まつり等では、ブースを1ヶ所設けて声かけながら配布する。

3つ目としてはSNS、フェイスブック等での活動等を配信していく。

4つ目にFacebookの「清瀬大好き」がありますが、登録者が4500人、市民の方以外もいる。取りかえるということでは、喜んで貼り付けて、発信していく。

5つ目は市報。内容についてQRコードつきで出した方がいいのではないか。紙とQRコード二次元コードの時代でするのでその二つの方法を活用していく必要があると考えた。

6 次回開催

令和8年6月23日（火）午後6時

市役所 研修室

7 閉会